

平成18 年社会生活基本調査 生活行動の「その他」項目
集計結果と同項目の記入状況に関する分析について

総務省統計局労働力人口統計室

永井 恵子

野口 真由

佐藤 朋彦

平成 18 年社会生活基本調査 生活行動の「その他」項目 集計結果と同項目の記入状況に関する分析について

総務省統計局労働力人口統計室 永井恵子*、野口真由*、佐藤朋彦*

1 はじめに

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分や自由時間等における主な活動を調査することにより、国民の社会生活の実態を明らかにし、男女共同参画、少子・高齢化対策等の各種行政施策立案の基礎資料を得ること、学術研究のための利用に資することなどを目的として、昭和 51 年より 5 年周期で実施している。

平成 18 年 10 月 20 日現在で実施した「平成 18 年社会生活基本調査」では、生活時間編、生活行動編、時間帯編、平均時刻編として、様々な結果表を公表した。このうち、生活行動編では、「インターネットの利用」、「学習・研究」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」、「ボランティア活動」及び「旅行・行楽」の生活行動について、それぞれ主な項目（以下「固定項目」という。）を列挙し、この固定項目別に行動者数等を集計している。このうち「スポーツ」と「趣味・娯楽」については、固定項目以外の行動をした場合には、「その他」にチェックをした上でフリー記入欄に主な項目を一つ回答することとしている。

このフリー記入欄に回答された項目（以下「その他項目」という。）は、本体集計では、固定項目以外の「その他」として一括して集計し、その内訳の集計は行っていなかった。しかしながら、「その他」の行動者率は「スポーツ」で 7.9%、「趣味・娯楽」で 10.5%と高い割合を示している。そこで、これらの“フリー記入欄”について、その内訳を集計することにより、「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の新たな傾向を把握するとともに、更なるデータの分析結果を提供することをねらいとして、平成 21 年 5 月に主な「その他項目」の集計結果を「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の行動者数及び行動者率の結果表の付表として公表したところである。

本稿では、この「その他項目」集計から新たな種目等の状況を紹介するとともに、回答者の属性及び記入状況から明らかになった当該項目の調査方法等に関する新たな知見を示すこととする。

2 平成 18 年調査でのフリー記入欄設定の経緯

平成 13 年調査では、アフターコード方式の調査票 B の導入に伴い、総合的な記入者に対する負担を軽減する観点から調査票 A の調査項目の大幅な見直しを行った。その結果、生活行動の「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の項目数を大幅に削減することとなった。

18 年調査では、①行動者率が高いこと、②政策的に要請があること、③文化創造的な項目であることを考慮して、一部の項目を復活したが、調査項目数は 8 年調査には及ばず、近年の多様化する生活行動を適切に把握するため、「その他」に“フリー記入欄”を設けることとした。また、フリー記入欄については、当初、次回調査の検討のために利用するとしていたが、当時の統計審議会において、その「積極的な活用」の検討について指摘を受けた経緯がある。

*本稿は、個人の見解をまとめたものであり、総務省統計局の公式見解を示すものではありません。

3 平成 18 年社会生活基本調査の概要

今回の集計に用いた平成 18 年調査の概要は以下の通りである。

(1) 調査日

調査は、平成 18 年 10 月 20 日現在で行った。生活行動については、過去 1 年間について、生活時間については、平成 18 年 10 月 14 日から 10 月 22 日までの 9 日間のうち、調査区ごとに連続する 2 日について行った。

(2) 標本数

全国の約 8 万世帯にふだん居住する 10 歳以上の世帯員約 20 万人。

(3) 調査票の種類

生活時間の調査方法の違いにより、プリコード方式による調査票 A とアフターコード方式による調査票 B の 2 種類があり、両者の主な違いは表 1 のとおりである。

表 1 調査票 A と調査票 B の比較

	調査票 A	調査票 B
標本数	約 7 万 6 千世帯 約 19 万人	約 4 千世帯 約 1 万人
開始年	昭和 51 年	平成 13 年
フェイス項目	◎	○
生活行動	◎	×
生活時間の調査方法	プリコード方式	アフターコード方式
行動分類の数	20	85

(4) 主な調査事項

① 世帯員に関する事項

世帯員の年齢によって調査事項が異なり、その主なものは以下のとおりである。

ア すべての世帯員に関する事項

年齢、世帯主との続柄、教育の状況など

イ 10 歳以上の世帯員に関する事項

生活行動、生活時間の配分、男女の別、配偶の関係、介護の状況など

ウ 15 歳以上の世帯員に関する事項

就業状態、仕事の種類、従業上の地位、ふだんの 1 週間の就業時間などの就業に関する事項

エ 60 歳以上の世帯員に関する事項

子の住居の所在地

② 世帯に関する事項

世帯の年間収入、住居の種類、介護支援の利用の状況など

なお、今回の集計では、調査票 A の生活行動に関するデータを使用した。

4 生活行動の「その他」項目の集計方法

(1) 集計に用いた調査票

今回の集計にあたっては調査票 A の生活行動「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の「その他」のフリー記入欄を使用した。「スポーツ」の固定項目は「野球」から順に 21 項目列挙されており、その後に「その他のスポーツ」としてフリー記入欄が設けられている。「趣味・娯楽」では、「スポーツ観覧」から順に 33 項目列挙されており、「スポーツ」と同様に、その後に「その他の趣味・娯楽」としてフリー記入欄が設けられている。

(2) 集計方法

① 集計用データの作成

フリー記入欄に回答された「その他項目」は、イメージとして保存され、符号化されていない。そこで、今回の集計を行う前の準備段階として、「その他項目」を文字データとして入力し、「その他項目」の符号を付与した集計用データを作成する必要がある。今回の集計においては、独立行政法人統計センターにおいて集計用データの作成を行った。

まず、「その他」に回答のあったデータ（スポーツ：13,293 人、趣味・娯楽：17,134 人）のうち、フリー記入欄に回答のあったデータ（スポーツ：11,389 人、趣味・娯楽：12,609 人）を抜き出した。

次に、このデータを項目ごとに単純に集計すると、スポーツの項目数は 984 項目、趣味・娯楽の項目数は 3,350 項目となった。そのままでは、「ソフトバレー」と書くか「ソフトバレーボール¹」と書くかといった記述の違いも別項目となってしまう、分析に用いにくいいため、記述内容を一つ一つ確認し、同一と考えられる種目などの類似項目をとりまとめた。その結果、スポーツは 334 項目、趣味・娯楽は 632 項目となった。

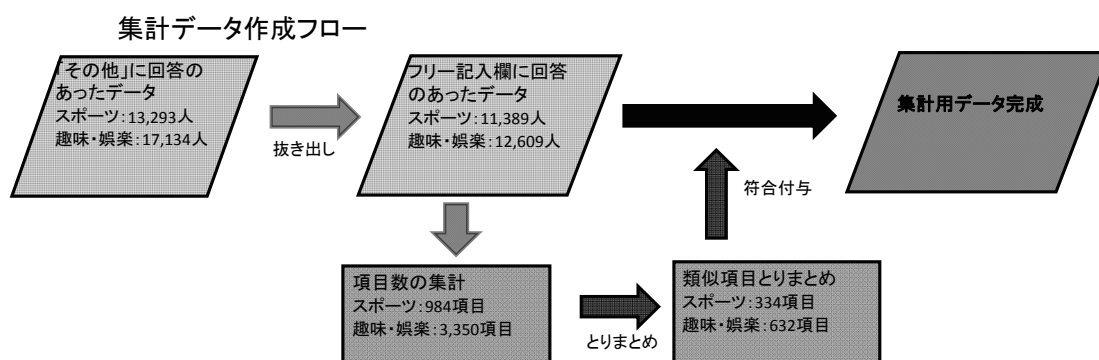
最後に、それぞれのデータに項目ごとの符合を付与し、集計用データを作成した。

② 集計

今回の集計では、フリー記入欄への記入頻度と行動者数について、スポーツ、趣味・娯楽それぞれに行った。記入頻度はフリー記入欄に回答のあった項目ごとにその回数を集計し、一人で複数回答があった場合もそれぞれを各項目の記入頻度に含まれることとした。行動者数については、複数回答の扱いは記入頻度と同様に行い、更に本体集計と同様に地域、男女、年齢階級ごとに集計用乗率（線形推定用乗率に比例補正用乗率を乗じたもの）を乗じ算出している²。

¹ バレーボールよりやや大きいゴム製のボールを用いて、4 人制で行うバレーボール。

² 推計方法の詳細については、『平成 18 年 社会生活基本調査報告 第 2 巻 全国 生活行動編（調査票 A）』、総務省統計局、「標本設計及び結果の推定方法」を参照。



5 集計結果の主な特徴

(1) 「スポーツ」の行動者数及び行動者率

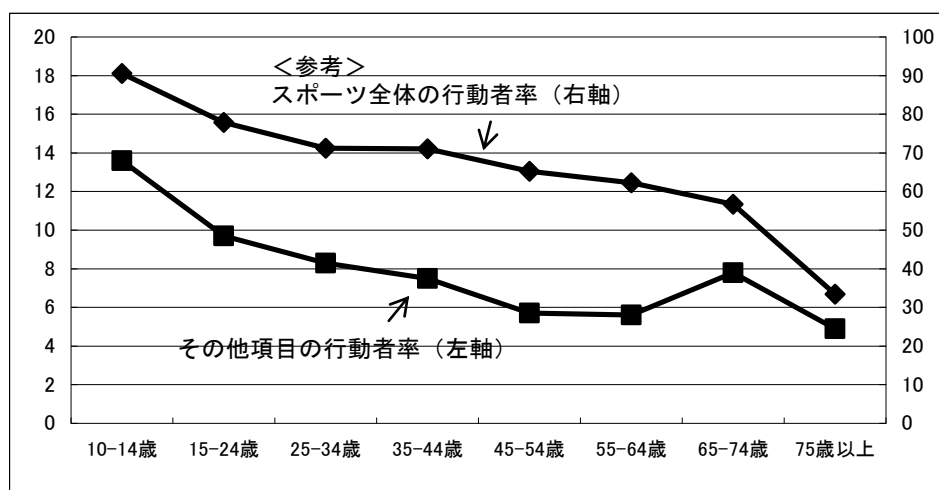
まず、「スポーツ」について「その他項目」の行動者数及び行動者率を回答者の属性別にみることとする。

①年齢階級別

「スポーツ」全体の行動者率は、学校等におけるクラブ活動などの影響もあり、若年層で高く年齢が上がるに従って低くなるという傾向がある。

「その他項目」の行動者率を年齢階級別にみると、スポーツ全体の傾向と同様に、10～14歳が13.6%と最も高く、次いで15～24歳が9.7%と、年齢が上がるに従って低くなる傾向がみられるが、65～74歳で前後の年齢層に比べてやや高くなるという特徴がみられる（図1参照）。

図1 年齢階級別「その他項目（スポーツ）」の行動者率（単位：％）



その他項目の内訳をみると、最も行動者率の高い10～14歳では、「空手」が行動者数131千人（行動者率2.2%、以下同じ）、「ドッジボール」が89千人（1.5%）、「陸上競技（詳細不明）」が62千人（1.0%）の順になっており、固定項目にない項目でクラ

ブ活動や学校の授業で行われているものが多く含まれている。

スポーツ全体の傾向とは異なり、「その他項目」で前後の年齢層に比べて行動者率の高い 65～74 歳では、「グラウンドゴルフ³」が 337 千人（2.4％）と最も行動者数が多く、次いで「パークゴルフ⁴」が 93 千人（0.7％）、「太極拳」が 76 千人（0.5％）となっている。

②男女別

男女別に行動者数の多い項目をみると、男性では、「グラウンドゴルフ」が 408 千人（0.7％）、次いで「サーフィン」が 216 千人（0.4％）、「空手」が 210 千人（0.4％）となっている。

女性では、「ヨーガ」が 617 千人（1.1％）、次いで「エアロビクス」が 564 千人（1.0％）、「グラウンドゴルフ」が 385 千人（0.7％）となっており、上位 2 項目が 1％超の行動者率となっている（表 2 参照）。

表2 フリー記入欄におけるスポーツの行動者数上位10項目

男女計			男			女		
項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)	項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)	項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)
1 グラウンドゴルフ	793	0.7	1 グラウンドゴルフ	408	0.7	1 ヨーガ	617	1.1
2 ヨーガ	635	0.6	2 サーフィン	216	0.4	2 エアロビクス	564	1.0
3 エアロビクス	594	0.5	3 空手	210	0.4	3 グラウンドゴルフ	385	0.7
4 パークゴルフ	335	0.3	4 パークゴルフ	178	0.3	4 太極拳	197	0.3
5 空手	297	0.3	5 ラグビー	113	0.2	5 ダンス（詳細不明）	178	0.3
6 サーフィン	285	0.3	6 フットサル	91	0.2	6 パークゴルフ	157	0.3
7 太極拳	230	0.2	7 弓道	77	0.1	7 軽い体操	143	0.2
8 特定されないダンス	207	0.2	8 ウォーキング	76	0.1	8 ウォーキング	118	0.2
9 ウォーキング	194	0.2	9 ドッジボール	70	0.1	9 弓道	92	0.2
10 軽い体操	189	0.2	10 ハンドボール	68	0.1	10 ドッジボール	88	0.2

③男女・年齢階級別

男性で最も行動者数の多い「グラウンドゴルフ」を年齢階級別にみると、55 歳以上の高齢層で多くなっており、65～74 歳の 179 千人（2.7％）が最も多い（図 2 参照）。

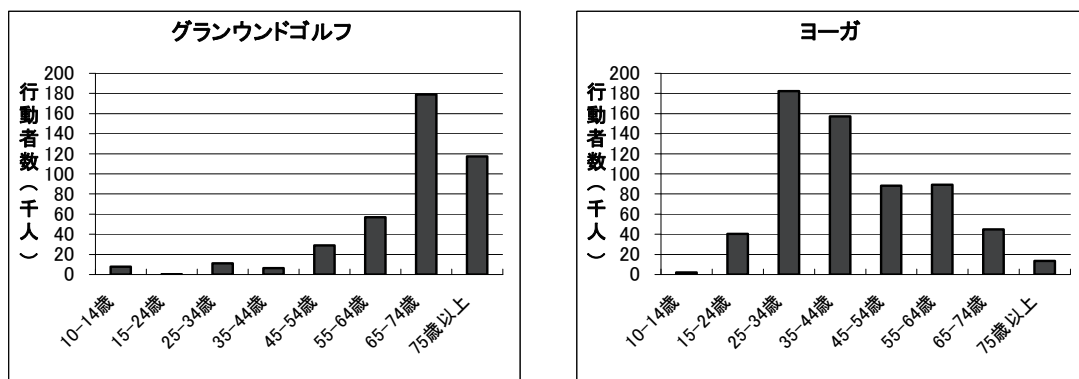
「サーフィン」は 25～34 歳が 107 千人（1.2％）、「空手」は 10～14 歳が 85 千人（2.8％）と最も多くなっている。

女性で最も行動者数の多い「ヨーガ」を年齢階級別にみると、25～64 歳の幅広い年齢層で多くなっており、25～34 歳の 182 千人（2.1％）が最も多い（図 3 参照）。「エアロビクス」も「ヨーガ」同様に幅広い年齢層で多いが、最も多いのは 35～44 歳の 185 千人（2.2％）となっている。「グラウンドゴルフ」は 65～74 歳が 159 千人（2.1％）と最も多くなっている。

³ 昭和 57 年に鳥取県東伯郡泊村生涯スポーツ活動推進事業の一環として、泊村教育委員会が中心になり考案された。専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用してゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を競う。

⁴ 昭和 58 年に北海道幕別町で、グラウンドゴルフを参考に「公園（パーク）を利用して行うゴルフ」として始められた。1 本のクラブとプラスチック製の 6 cm のボールを使い 18 ホールをどれだけ少ない打数で回れるかを競う。

図2 グラウンドゴルフの年齢階級別行動者数(男) 図3 ヨーガの年齢階級別行動者数(女)



④都道府県別

都道府県別に行動者数の多い上位項目をみると、全国計で最も多い「グラウンドゴルフ」が1位である都道府県は31となっている。

「グラウンドゴルフ」以外の項目が1位である都道府県をみると、北海道が「パークゴルフ」、富山県が「ビーチボールバレー⁵」、長野県が「マレットゴルフ⁶」となっている。これらはいずれも発祥地であったり、その元となる種目が改良された地であったりと、地域と関わりの深い競技である(表3参照)。

次に全国結果で行動者率が高い項目について、都道府県別にみると、「グラウンドゴルフ」の行動者率は、島根県で2.8%と最も高く、次いで発祥地である鳥取県が2.5%、宮崎県、鹿児島県、及び佐賀県が2.4%となっている(図4参照)。

同じくゴルフ系のスポーツである「パークゴルフ」の行動者率は、発祥地である北海道が5.5%と最も高く、次いで富山県が0.6%、青森県が0.4%と、北海道が突出して高くなっている(図5参照)。

図4 都道府県別行動者率(上位5県)(単位:%)

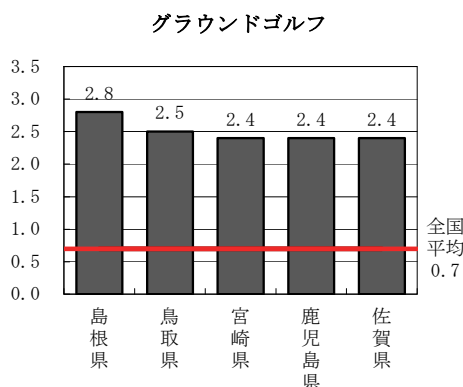
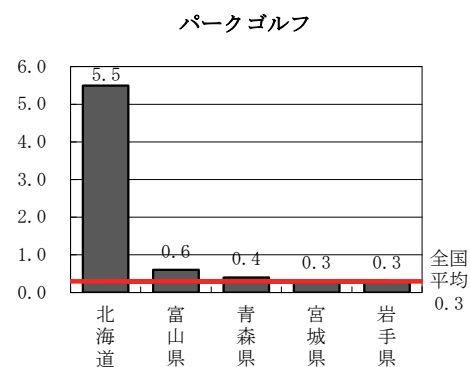


図5 都道府県別行動者率(上位5県)(単位:%)



⁵ 昭和54年に富山県朝日町で始められた。ビーチボールを用い、4人制でバドミントンコートを使って行う(※ビーチバレーボールとは異なる)。

⁶ 昭和52年に福井県福井市で考案され、その後、昭和56年に長野県で改良されたミニゴルフの一種。ゲートボールのスティック(マレット)とボールを使用し、ルールはゴルフとほぼ同じ。

表3 都道府県別 行動者数上位5項目(単位:千人)

		総数	1		2		3		4		5	
			項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数
	全国	8,422	グラウンドゴルフ	793	ヨーガ	635	エアロビクス	594	パークゴルフ	335	空手	297
01	北海道	545	パークゴルフ	274	ヨーガ	22	エアロビクス	17	ミニバレー	15	ウォーキング	12
02	青森県	71	グラウンドゴルフ	5	パークゴルフ	4	ウォーキング	3	エアロビクス	3	サーフィン	2
03	岩手県	78	グラウンドゴルフ	10	パークゴルフ	4	太極拳	4	空手	2	ヨーガ	2
04	宮城県	133	グラウンドゴルフ	15	空手	8	エアロビクス	7	サーフィン	7	パークゴルフ	7
05	秋田県	66	グラウンドゴルフ	23	太極拳	3	パークゴルフ	3	ヨーガ	3	弓道	2
06	山形県	67	グラウンドゴルフ	19	ヨーガ	4	エアロビクス	3	相撲	2	陸上競技(詳細不明)	2
07	福島県	109	グラウンドゴルフ	10	ウォーキング	7	軽い体操	6	弓道	4	パークゴルフ	4
08	茨城県	164	ヨーガ	11	グラウンドゴルフ	11	空手	9	サーフィン	9	弓道	8
09	栃木県	94	グラウンドゴルフ	15	エアロビクス	12	ヨーガ	7	空手	4	水中エアロビクス	4
10	群馬県	134	グラウンドゴルフ	23	ヨーガ	12	エアロビクス	9	太極拳	5	弓道	5
11	埼玉県	460	グラウンドゴルフ	59	ヨーガ	45	エアロビクス	41	ダンス(詳細不明)	20	太極拳	18
12	千葉県	397	グラウンドゴルフ	30	エアロビクス	29	ヨーガ	26	サーフィン	21	ウォーキング	19
13	東京都	1,066	エアロビクス	128	ヨーガ	90	ダンス(詳細不明)	39	太極拳	34	サーフィン	33
14	神奈川県	686	ヨーガ	91	サーフィン	61	エアロビクス	59	空手	27	ダンス(詳細不明)	24
15	新潟県	106	エアロビクス	11	ヨーガ	7	空手	6	グラウンドゴルフ	5	サーフィン	5
16	富山県	75	ビーチボールバレー	11	ビーチバレーボール	9	パークゴルフ	6	エアロビクス	4	ヨーガ	4
17	石川県	76	グラウンドゴルフ	22	エアロビクス	6	ヨーガ	5	陸上競技(詳細不明)	3	弓道	2
18	福井県	53	ヨーガ	5	グラウンドゴルフ	3	マレットゴルフ	3	ソフトバレーボール	3	ベタंक	2
19	山梨県	58	グラウンドゴルフ	10	エアロビクス	4	ヨーガ	4	ソフトバレーボール	3	アイススケート(詳細不明)	2
20	長野県	218	マレットゴルフ	75	ヨーガ	12	ソフトバレーボール	9	空手	8	エアロビクス	8
21	岐阜県	123	エアロビクス	13	グラウンドゴルフ	12	ヨーガ	12	空手	8	ソフトバレーボール	8
22	静岡県	257	グラウンドゴルフ	36	サーフィン	15	インディアカ	14	エアロビクス	13	ヨーガ	12
23	愛知県	510	ヨーガ	41	エアロビクス	40	空手	26	グラウンドゴルフ	24	軽い体操	22
24	三重県	109	グラウンドゴルフ	13	空手	7	サーフィン	6	ヨーガ	6	エアロビクス	6
25	滋賀県	99	グラウンドゴルフ	27	ヨーガ	5	エアロビクス	5	ドッジボール	3	空手	3
26	京都府	199	グラウンドゴルフ	25	ヨーガ	18	エアロビクス	15	空手	8	ウォーキング	7
27	大阪府	567	ヨーガ	56	エアロビクス	38	ウォーキング	35	ダンス(詳細不明)	30	太極拳	29
28	兵庫県	307	ヨーガ	34	グラウンドゴルフ	29	エアロビクス	17	空手	13	ウォーキング	12
29	奈良県	91	グラウンドゴルフ	11	ヨーガ	6	弓道	4	軽い体操	4	エアロビクス	4
30	和歌山県	49	グラウンドゴルフ	3	エアロビクス	3	ヨーガ	3	ドッジボール	2	合気道	2
31	鳥取県	37	グラウンドゴルフ	14	ソフトバレーボール	2	エアロビクス	2	ドッジボール	1	ベタंक	1
32	島根県	55	グラウンドゴルフ	18	ベタंक	5	ソフトバレーボール	2	ヨーガ	2	エアロビクス	2
33	岡山県	98	グラウンドゴルフ	17	エアロビクス	9	空手	6	ヨーガ	5	軽い体操	4
34	広島県	197	グラウンドゴルフ	45	エアロビクス	11	ヨーガ	10	フットベースボール	9	軽い体操	8
35	山口県	78	グラウンドゴルフ	8	エアロビクス	7	ヨーガ	5	軽い体操	4	空手	4
36	徳島県	39	ヨーガ	4	サーフィン	3	グラウンドゴルフ	3	空手	2	太極拳	2
37	香川県	47	ヨーガ	4	グラウンドゴルフ	3	エアロビクス	3	ソフトバレーボール	3	空手	2
38	愛媛県	69	エアロビクス	7	グラウンドゴルフ	7	ヨーガ	5	ハンドボール	3	空手	2
39	高知県	32	サーフィン	2	ウォーキング	2	グラウンドゴルフ	2	ヨーガ	2	陸上競技(詳細不明)	2
40	福岡県	253	グラウンドゴルフ	44	エアロビクス	20	ヨーガ	15	弓道	12	ドッジボール	10
41	佐賀県	53	グラウンドゴルフ	18	エアロビクス	3	ミニバレー	3	気功	2	空手	2
42	長崎県	68	グラウンドゴルフ	11	エアロビクス	5	陸上競技(詳細不明)	4	空手	4	ヨーガ	3
43	熊本県	144	グラウンドゴルフ	35	ミニバレー	10	ビーチバレーボール	9	ヨーガ	6	ビーチボールバレー	5
44	大分県	60	グラウンドゴルフ	13	ミニバレー	7	空手	3	エアロビクス	2	ウォーキング	2
45	宮崎県	88	グラウンドゴルフ	25	ミニバレー	10	サーフィン	10	ヨーガ	6	空手	4
46	鹿児島県	109	グラウンドゴルフ	37	ヨーガ	8	空手	7	弓道	5	ミニバレー	4
47	沖縄県	92	グラウンドゴルフ	22	ハンドボール	7	空手	6	ヨーガ	4	ラグビー	3

(2)「趣味・娯楽」の行動者数及び行動者率

次に「趣味・娯楽」について、「その他項目」の行動者数及び行動者率を回答者の属性別にみることにする。

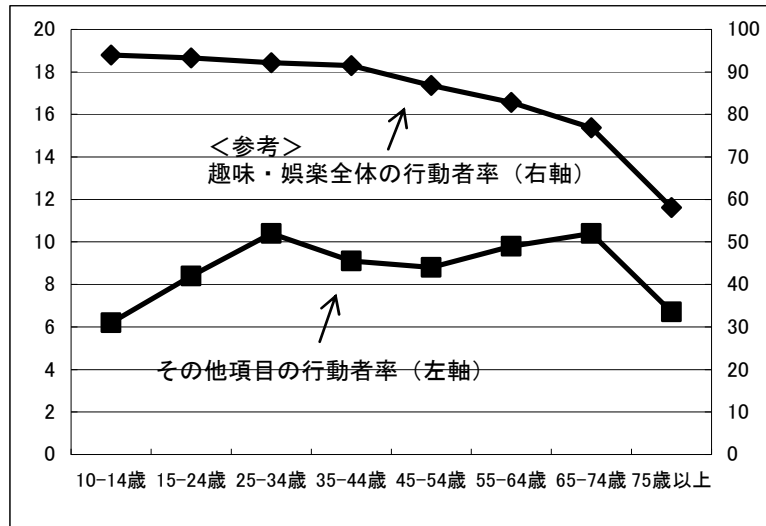
①年齢階級別

「趣味・娯楽」全体の行動者率は、「スポーツ」と同様に若年層で高く、年齢が上がるに従って低くなるという傾向がみられる。

「その他項目」の行動者率を年齢階級別にみると、25～34 歳と 65～74 歳がともに

10.4%と最も高く、この二つの年齢階級をピークとする二つの山がみられ、「趣味・娯楽」全体とは異なるパターンとなっている（図6参照）。

図6 年齢階級別「その他項目（趣味・娯楽）」の行動者率（単位：%）



その他項目の内訳をみると、25～34歳では、「ドライブ」が行動者数 199 千人（行動者率 1.1%、以下同じ）と最も多く、次いで「バーベキュー」が 171 千人（1.0%）、「旅行（詳細不明）」が 103 千人（0.6%）となっている。65～74歳では、「旅行（詳細不明）」が 98 千人（0.7%）と最も多く、次いで「麻雀」が 77 千人（0.5%）、「ドライブ」が 59 千人（0.4%）となっている。

②男女別

男女別に行動者数の多い項目をみると、男性では、「ドライブ」が 449 千人（0.8%）、次いで「麻雀」が 312 千人（0.6%）、「つり」が 280 千人（0.5%）となっている。

女性では、「旅行（詳細不明）」が 385 千人（0.7%）、次いで「ドライブ」が 283 千人（0.5%）、「バーベキュー」が 200 千人（0.3%）となっている。

「ドライブ」、「旅行（詳細不明）」など、男女ともに行動者率が高い項目もあるが、「趣味・娯楽」は男女での嗜好の違いが大きく、男性では、その他に「オートバイ」、「競馬」、「プラモデル」などが上位に入っており、女性では、「買い物（詳細不明）」、「温泉」、「ジグソーパズル」などが上位に入っている（表4参照）。

表4 フリー記入欄における趣味・娯楽の行動者数上位10項目

男女計			男			女		
項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)	項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)	項目	行動者数 (千人)	行動者率 (%)
1 ドライブ	733	0.6	1 ドライブ	449	0.8	1 旅行(詳細不明)	385	0.7
2 旅行(詳細不明)	605	0.5	2 麻雀	312	0.6	2 ドライブ	283	0.5
3 麻雀	379	0.3	3 つり	280	0.5	3 バーベキュー	200	0.3
4 バーベキュー	354	0.3	4 オートバイ	280	0.5	4 買い物(詳細不明)	186	0.3
5 つり※	299	0.3	5 競馬	240	0.4	5 温泉	160	0.3
6 オートバイ※	296	0.3	6 旅行(詳細不明)	219	0.4	6 ジグソーパズル	85	0.1
7 競馬	262	0.2	7 バーベキュー	155	0.3	7 ガーデニング	83	0.1
8 温泉	238	0.2	8 ブラモデル	98	0.2	8 パズル・クイズ (詳細不明)	80	0.1
9 買い物(詳細不明)	234	0.2	9 家庭農園	84	0.2	9 読書(詳細不明)	76	0.1
10 ガーデニング	153	0.1	10 温泉	78	0.1	10 ビーズ手芸	74	0.1

③男女・年齢階級別

男性で最も行動者数の多い「ドライブ」を年齢階級別にみると、25～64歳の幅広い年齢層で多くみられるが、特に25～34歳で突出して多く、135千人(1.5%)となっている(図7参照)。「麻雀」は15～24歳及び55～74歳で多く、「つり」は45～64歳で多くなっている。

女性で最も行動者数の多い「旅行(詳細不明)」を年齢階級別にみると、25～74歳の幅広い年齢層で多く、55～64歳の98千人(1.0%)が最も多い(図8参照)。「ドライブ」は25～64歳の幅広い年齢層で多く、「バーベキュー」は25～34歳で多くなっている。

図7 ドライブの年齢階級別行動者数(男)

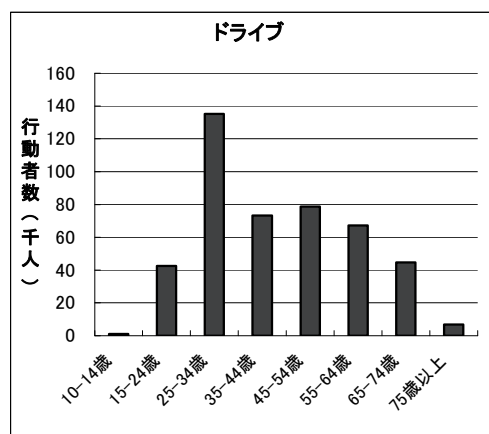
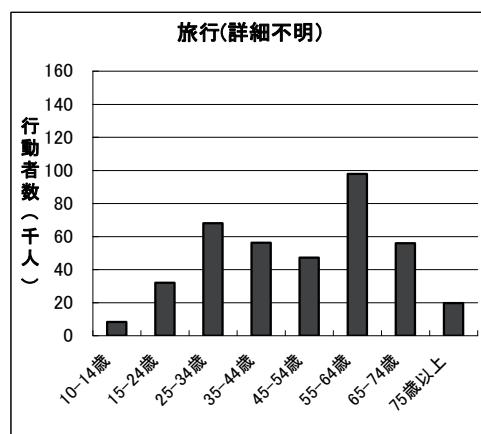


図8 旅行(詳細不明)の年齢階級別行動者数(女)



④都道府県別

都道府県別に行動者数の多い上位項目をみると、全国計で最も多い「ドライブ」が1位である都道府県は35となっている。「ドライブ」は47都道府県すべてにおいて上位3項目の中に含まれており、全国を通して行動者数が多い項目であると言える。

「ドライブ」以外の項目が1位である都道府県のうち、東京都、愛知県、三重県、大阪府、奈良県、岡山県、徳島県、香川県の8都道府県で「旅行(詳細不明)」が1位

となっている。その他には、秋田県で「山菜・きのこ狩り」が、静岡県で「オートバイ」が1位となっている。「山菜・きのこ採り」が上位に含まれる都道府県をみると、主に東北地方に集中していることがわかる（表5参照）。

表5 都道府県別 行動者数上位5項目(単位:千人)

		1		2		3		4		5	
		項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数	項目	行動者数
	全国	ドライブ	733	旅行（詳細不明）	605	麻雀	379	バーベキュー	354	つり*	299
01	北海道	ドライブ	30	麻雀	26	旅行（詳細不明）	21	温泉	19	競馬	17
02	青森県	ドライブ	13	山菜・きのこ採り	9	温泉	5	つり*	4	ガーデニング	3
03	岩手県	ドライブ	11	つり*	5	山菜・きのこ採り	5	競馬	4	買物（詳細不明）	3
04	宮城県	ドライブ	18	旅行（詳細不明）	13	温泉	13	オートバイ*	11	買物（詳細不明）	8
05	秋田県	山菜・きのこ採り	10	ドライブ	7	競馬	3	温泉	3	つり*	3
06	山形県	ドライブ	7	山菜・きのこ採り	4	麻雀	4	旅行（詳細不明）	4	買物（詳細不明）	3
07	福島県	ドライブ	21	旅行（詳細不明）	10	麻雀	6	オートバイ*	6	ガーデニング	5
08	茨城県	ドライブ	15	つり*	10	ガーデニング	7	オートバイ*	7	旅行（詳細不明）	6
09	栃木県	ドライブ	11	旅行（詳細不明）	9	買物（詳細不明）	7	温泉	7	オートバイ*	5
10	群馬県	ドライブ	12	バーベキュー	10	オートバイ*	8	旅行（詳細不明）	7	ジグソーパズル	4
11	埼玉県	ドライブ	47	旅行（詳細不明）	45	オートバイ*	23	バーベキュー	19	麻雀	18
12	千葉県	ドライブ	37	旅行（詳細不明）	30	家庭農園	14	競馬	14	オートバイ*	13
13	東京都	旅行（詳細不明）	81	バーベキュー	66	ドライブ	59	競馬	48	麻雀	42
14	神奈川県	ドライブ	68	旅行（詳細不明）	44	麻雀	39	バーベキュー	30	オートバイ*	25
15	新潟県	ドライブ	13	バーベキュー	9	家庭農園	9	旅行（詳細不明）	8	オートバイ*	7
16	富山県	ドライブ	6	バーベキュー	5	旅行（詳細不明）	3	オートバイ*	3	競輪	2
17	石川県	ドライブ	7	バーベキュー	5	つり*	4	麻雀	4	競馬	2
18	福井県	ドライブ	8	バーベキュー	4	麻雀	3	旅行（詳細不明）	3	オートバイ*	2
19	山梨県	ドライブ	5	バーベキュー	4	温泉	3	旅行（詳細不明）	3	つり*	2
20	長野県	ドライブ	14	温泉	8	旅行（詳細不明）	8	つり*	7	山菜・きのこ採り	6
21	岐阜県	ドライブ	10	麻雀	9	バーベキュー	8	旅行（詳細不明）	7	オートバイ*	6
22	静岡県	オートバイ*	23	バーベキュー	18	ドライブ	13	旅行（詳細不明）	11	つり*	9
23	愛知県	旅行（詳細不明）	42	麻雀	42	ドライブ	35	バーベキュー	30	つり*	29
24	三重県	旅行（詳細不明）	12	ドライブ	8	温泉	5	オートバイ*	4	会食・パーティー・飲み会	4
25	滋賀県	ドライブ	12	バーベキュー	10	旅行（詳細不明）	4	家庭農園	4	買物（詳細不明）	4
26	京都府	バーベキュー	20	ドライブ	16	旅行（詳細不明）	12	競馬	11	オートバイ*	9
27	大阪府	旅行（詳細不明）	62	ドライブ	38	麻雀	37	競馬	28	他に含まれないテレビゲーム・パソコンゲーム	25
28	兵庫県	ドライブ	30	バーベキュー	27	旅行（詳細不明）	22	買物（詳細不明）	22	競馬	17
29	奈良県	旅行（詳細不明）	10	ドライブ	9	つり*	6	麻雀	4	オートバイ*	4
30	和歌山県	ドライブ	6	つり*	5	旅行（詳細不明）	4	麻雀	4	バーベキュー	3
31	鳥取県	ドライブ	3	オートバイ*	2	家庭農園	2	温泉	2	旅行（詳細不明）	2
32	島根県	ドライブ	3	旅行（詳細不明）	2	麻雀	2	温泉	1	家庭農園	1
33	岡山県	旅行（詳細不明）	8	オートバイ*	8	ドライブ	8	麻雀	5	つり*	4
34	広島県	ドライブ	17	旅行（詳細不明）	15	つり*	7	ガーデニング	7	バーベキュー	6
35	山口県	ドライブ	7	旅行（詳細不明）	7	つり*	6	温泉	6	オートバイ*	4
36	徳島県	旅行（詳細不明）	4	ドライブ	2	買物（詳細不明）	2	つり*	2	バーベキュー	2
37	香川県	旅行（詳細不明）	5	バーベキュー	4	ドライブ	3	神社、仏閣、教会めぐり	3	家庭農園	2
38	愛媛県	つり*	7	ドライブ	7	旅行（詳細不明）	6	アルバム	5	温泉	3
39	高知県	ドライブ	7	つり*	4	旅行（詳細不明）	3	オートバイ*	2	ガーデニング	2
40	福岡県	ドライブ	29	旅行（詳細不明）	28	麻雀	21	温泉	18	買物（詳細不明）	15
41	佐賀県	ドライブ	4	旅行（詳細不明）	3	買物（詳細不明）	2	温泉	2	つり*	2
42	長崎県	ドライブ	7	旅行（詳細不明）	4	麻雀	4	温泉	3	魚	2
43	熊本県	ドライブ	13	温泉	7	つり*	7	旅行（詳細不明）	7	オートバイ*	4
44	大分県	ドライブ	13	旅行（詳細不明）	6	オートバイ*	4	詩吟	2	つり*	2
45	宮崎県	ドライブ	7	温泉	4	旅行（詳細不明）	4	麻雀	3	つり*	3
46	鹿児島県	ドライブ	10	つり*	5	オートバイ*	5	旅行（詳細不明）	5	ヨット*	5
47	沖縄県	ドライブ	8	旅行（詳細不明）	6	バーベキュー	5	買物（詳細不明）	4	つり*	3

6 集計結果から得られた新たな知見

上記5において、「その他項目」に関する集計結果の特徴を示したが、次にこの集計結果から得られた新たな知見について述べることにする。

(1) 固定項目の検討について

「スポーツ」では、「グラウンドゴルフ」及び「ヨーガ」の行動者率が、固定項目で最も行動者率の低い「柔道」及び「剣道」と同程度となった。

近年、高齢層を中心にゴルフから派生した新たなスポーツの人気の高まっている。これら「グラウンドゴルフ」や「パークゴルフ」などのスポーツを「ゴルフ系」としてまとめるとその行動者率は1.1%⁷となり、同じく高齢層に人気のある「ゲートボール」の1.0%を上回った。「ゲートボール」は、平成8年調査では行動者率が1.7%であったが、13年調査で1.3%、18年調査では1.1%と徐々に行動者率が低くなっており、高齢層での「スポーツ」の嗜好が少しずつ変化していることがうかがわれる。

「趣味・娯楽」では、行動者率の高い項目をみると、「ドライブ」、「麻雀」など平成13年調査で固定項目から削除した項目の行動者率が高くなっているが、固定項目を超える行動者率の項目はなかった。(表6参照)。

このように、「その他」の内訳を改めて集計することによって、「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の新たな傾向等がわかった。

表6 その他項目行動者率上位3項目と固定項目行動者率下位3項目

【スポーツ】					【趣味・娯楽】				
その他項目上位3項目			固定項目下位3項目		その他項目上位3項目			固定項目下位3項目	
順位	項目	行動者率(%)	項目	行動者率(%)	順位	項目	行動者率(%)	項目	行動者率(%)
1	グラウンドゴルフ	0.7	柔道	0.6	1	ドライブ	0.6	洋舞・社交ダンス	1.8
2	ヨーガ	0.6	剣道	0.6	2	旅行(詳細不明)	0.5	囲碁	1.8
3	エアロビクス	0.5	ゲートボール	1.0	3	麻雀	0.3	茶道	1.9

(2) 「スポーツ」と「趣味・娯楽」の切り分けについて

調査票では「スポーツ」と「趣味・娯楽」を分けて項目を列挙しているが、「スポーツ」の固定項目にある「釣り」が、「趣味・娯楽」のフリー記入欄に477件回答された。一方で「趣味・娯楽」の固定項目としている「洋舞・社交ダンス」に相当するバレエ、ジャズダンスなどの「ダンス⁸」が、「スポーツ」のフリー記入欄に461件回答された。

行動者数でみると、「釣り」では固定項目である「スポーツ」としては11,340千人であるのに対し、「趣味・娯楽」としては299千人となっている。固定項目の「釣り」の標準

⁷ 平成21年5月22日に公表した結果によると、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、マレットゴルフ、ターゲットバードゴルフ、パターゴルフ、ミニゴルフ、マウンテンボール、その他のゴルフ系スポーツをまとめた「グラウンドゴルフ等」の行動者数は1,256(千人)で行動者率は1.1%となっている。

⁸ 平成21年5月22日に公表した結果によると、特定されないダンス、ジャズダンス、社交ダンス、バレエ、舞踊、フラダンス、ヒップホップダンス、フォークダンス、リズムダンス、その他のダンスをまとめた「ダンス」の行動者数は400(千人)で行動者率は0.4%となっている。

誤差率は1.94%であるため、299千人は1.36 σ に相当する。

一方、「洋舞・社交ダンス」では固定項目である「趣味・娯楽」では1,988千人であるのに対し、「スポーツ」としては400千人となっている。固定項目の「洋舞・社交ダンス」の標準誤差率は3.01%であるため、400千人は6.68 σ に相当し、有意な大きさとなっている（表7参照）。

表7 「つり」及び「洋舞・社交ダンス」の行動者数及び行動者率

項 目	合 計		スポーツ欄		趣味・娯楽欄	
	(千人)	(%)	(千人)	(%)	(千人)	(%)
つり	11,639	(10.2)	11,340	(10.0)	299	(0.3)
洋舞・ダンス	2,388	(2.1)	400	(0.4)	1,988	(1.8)

*網掛けはその他項目

これらは、その行動に対する回答者の意識の違い、すなわち、スポーツと位置づけ行動しているのか、趣味として位置づけ行動しているのかという違いによるものであり、両者の切り分けは非常に難しい。この点については、「意識」を含めて「行動」とすべきかどうかといった概念上の整理とともに、「スポーツ」と「趣味・娯楽」を分ける必要があるか否かといった調査票設計上の検討が必要である。また、フリー記入欄の集計結果をそれぞれの固定項目と合わせて行動者率等を集計する、もしくは「趣味・娯楽」の「つり」、「スポーツ」の「ダンス」として分けて集計するなど、集計上の取扱いについても今後検討が必要であろう。

(3) 固定項目にある項目でその他項目に回答された項目について

固定項目に該当する項目があるものの、「その他」のフリー記入欄に回答された項目（以下「固定項目に該当する項目」という。）をみると、「スポーツ」では「ウォーキング・軽い体操」、「器具を使ったトレーニング」、「サッカー」など、「趣味・娯楽」では「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「絵画・彫刻の制作」などの記入頻度が高い。これらの要因について以下に考察する。

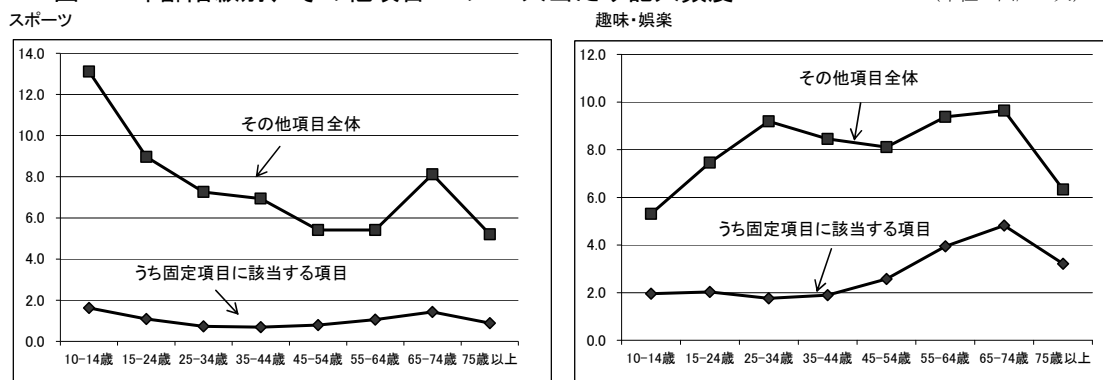
① 高齢層で高い記入頻度

固定項目に該当する項目の記入頻度全体を、年齢階級別に100人当たり記入頻度で見ると、スポーツでは、10～14歳が高く、年齢が上がるに従って下がるが、45～54歳から高くなり、65～74歳を第2のピークとしている。趣味・娯楽では、45歳以上の中高年齢層で高く、65～74歳をピークとしている。

その他項目全体の記入頻度と比べると、「スポーツ」では、分布パターンは似ているが、若年層と高齢層の差が小さくなっている。「趣味・娯楽」では、その他項目全体ではみられた25～34歳をピークとする一つ目の山がみられない（図9参照）。

図9 年齢階級別、その他項目への100人当たり記入頻度

(単位：回/100人)



そこで、その他項目全体の記入頻度（回数）に占める固定項目に該当する項目の記入頻度（回数）の割合をみると、55歳以上の年齢階級で高く、高齢層では、固定項目に該当する項目の記入頻度が高いことがわかる（表8参照）。

表8 年齢階級別、その他項目全体の記入頻度に占める固定項目に該当する項目への記入頻度の割合(単位：%)

	合計	10-14歳	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	75歳以上
スポーツ	14.3	12.4	12.2	10.1	10.0	14.7	19.5	17.7	17.1
趣味・娯楽	35.3	36.8	27.2	19.2	22.5	31.7	42.1	50.0	50.7

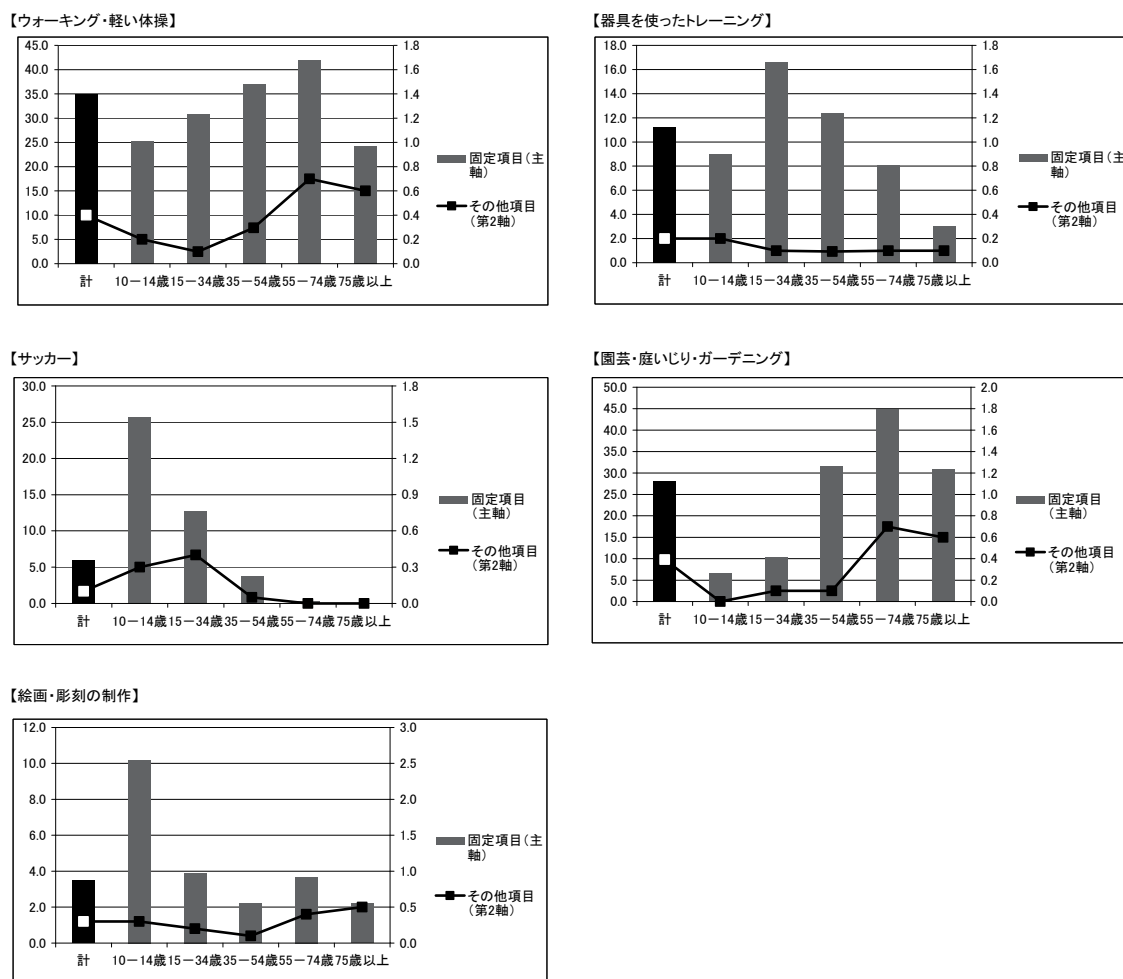
また、記入頻度の高い項目を年齢階級別にみると、「ウォーキング・軽い体操」、「園芸・庭いじり・ガーデニング」は固定項目で高齢層の行動者率が高い項目であり、その他項目でも同様に高齢層での行動者率が高い。「絵画・彫刻の制作」は、固定項目では10～14歳で行動者率が高い項目であるが、その他項目での行動者率は55歳以上の高齢層で高い（図10参照）。

これらのことから、固定項目に該当する項目をその他項目に回答する傾向は高齢層で強いと言える。

なお、これらの項目がその他項目として多数回答された要因について考えると、「ウォーキング・軽い体操」は、3割強という非常に高い行動者率であるにもかかわらず、調査票では、固定項目の20番目に出てくることから、見つけにくいためとみられる。また、「趣味・娯楽」では固定項目の数が33項目と多く、項目名も長いことから、特に高齢層には見つけにくく、選択が難しいため、フリー記入欄に回答されたのではないかと考えられる。

図10 年齢階級別、固定項目とその他項目の行動者率

(単位: %)



②多くの種目を含む項目

固定項目に該当する項目で記入頻度の高い項目の記入内容をみると、「サッカー」では、「フットサル」をフリー記入欄に回答する例が多くみられた。「フットサル」は、調査票と一緒に世帯に配布する「記入の仕方」(『調査票を記入する前に』)では「サッカー」に含む旨の記述があるが、調査票では単に「サッカー」となっているため、回答者が「サッカー」に含まれないと判断し、フリー記入欄に回答した可能性がある。

また、「軽い体操」に該当するものとして、フリー記入欄には「ラジオ体操」や「健康体操」をはじめ60を超える種目の回答があった。同様に、「器具を使ったトレーニング」には、「縄とび」や「3B体操⁹」をはじめ50を超える種目の回答があった。このように、包括的な項目名を持つ多くの種目を含む固定項目では、その項目に回答して良いか、回答

⁹ 3B体操とは、ボール、ベル、ベルターの用具を運動の助けとして使用しながら、全ての動きを音楽に合わせて集団で行う健康体操のこと。

者が判断に迷った結果、「その他」のフリー記入欄への回答が増えるのではないかと考えられる。

それぞれの固定項目に含まれる種目については、記入の仕方でもあまり詳しく説明されていないため、回答者が判断に迷うことも多いとみられる。包括的な項目名を持つ多くの種目を含む固定項目では、その傾向がさらに強まると考えられる。

③「趣味・娯楽」の多様性と独自性

その他項目全体の記入頻度（回数）に占める固定項目に該当する項目の記入頻度（回数）の割合をみると、「スポーツ」では14.3%であるが、「趣味・娯楽」では35.3%と非常に高く、「趣味・娯楽」の方が固定項目に該当する項目をその他項目に回答する傾向が強いと言える（表8参照）。

「趣味・娯楽」で、固定項目に該当する項目への記入頻度が高い項目をみると、「絵画・彫刻の制作」では、「絵手紙」、「切り絵」など、実際の行動を具体的に回答する例が多くみられる。これは、②で述べたように、調査票や記入の仕方では、固定項目に含まれるものについて、あまり詳しく説明していないため、回答者には何が固定項目に該当するのか判断が難しいことによるものとみられる。また、あらかじめ作成した分類にあてはめて回答してもらうプレコーディング方式の難しさも要因の一つと考えられる。特に「趣味・娯楽」では、内容が多様な上に、自らの趣味に対する独自性（こだわり）も強く、具体的な回答が多いのではないかと考えられる。

このように、固定項目の並び順、項目数、記述の仕方などの調査票設計や記入の仕方での説明方法を工夫することによって、固定項目に該当する項目が、その他項目として回答される事例を減らすことは可能ではないだろうか。ただし、調査票設計の変更にあたっては、時系列比較の観点から、固定項目の並び順の変更によって回答率が変わるといった先行研究もあり、調査票設計の変更が及ぼす影響の有無について検証しておく必要がある。

(4)「その他」のフリー記入欄の設計上の検討及び集計上の取扱いについて

①フリー記入欄の拡充と集計上の取扱い

現在は、フリー記入欄のスペースは小さく、原則として主な行動を一つ回答することとしている。フリー記入欄の一人当たり回答数をみると、1項目回答した人でほぼ9割を占めるが、約1割の人が2項目回答しており、最も多い人では「スポーツ」で6項目、「趣味・娯楽」では10項目も回答している。特に「趣味・娯楽」では複数回答の傾向が強い（表9参照）。

表9 フリー記入欄の一人当たり回答数

スポーツ

回数	回答人数	割合(%)
合計	11,389	100.0
1	10,380	91.1
2	891	7.8
3	102	0.9
4以上	16	0.1

趣味・娯楽

回数	回答人数	割合(%)
合計	12,608	100.0
1	10,775	85.5
2	1,524	12.1
3	241	1.9
4以上	68	0.5

最近の多様化する生活行動を捉えるためには、固定項目を増やす方法はもちろんであるが、固定項目を減らして、フリー記入欄を拡充する方法も考えられる。ただし、その場合には、フリー記入欄について分類、集計し、固定項目と合せて公表するといった集計上の取扱いについても検討が必要である。

固定項目を多く設定することは、集計の早期化、また、回答者に行動を想起させるという点からみて利点がある。一方で、調査票が見づらくなり、(3)の①で示したように、フリー記入欄に固定項目に該当する項目が多数回答される恐れがある。

フリー記入欄を拡充することは、回答者の多様化する行動を捉えるという点からみて利点がある。一方で、集計に手間と時間がかかり、限られたリソースの中では調査結果の公表が遅れることとなろう。

②固定項目とフリー記入欄での回答数の違い

固定項目とフリー記入欄とでは、回答数に大きな違いを生ずる恐れがあり、これは固定項目の削減とフリー記入欄の拡充を考える上で重要な点である。

平成13年調査では、前述のとおり固定項目を大幅に削減した。今回のその他項目集計で上位に挙がっている項目のうち、平成13年で削減した項目について、平成8年調査の固定項目としての行動者率と、今回の平成18年調査のフリー記入としての行動者率を比べてみると、調査時期に10年の開きがあるため、単純に比較はできないが、項目によってはかなり大きな違いがみられる。例えば、「趣味・娯楽」の「ドライブ」は平成8年調査では48.0%と非常に高い行動者率であったが、平成18年のその他項目のフリー記入での回答では、0.6%にすぎない。昨今、若者の自動車離れ等が言われてはいるが、それにしても、ここまで差が生じるとは考えにくい。これは、調査票に「ドライブ」とあれば、回答者は「ドライブをした」という「行動」を思い起こして回答するが、「趣味・娯楽は？」と問われた場合には「ドライブ」を「趣味・娯楽」として強く認識している人しか回答しないということを示している（表10参照）。

表10 固定項目(平成8年)とフリー記入(平成18年)での行動者率の比較

スポーツ			趣味・娯楽		
項目	固定項目 (8年)	その他項目集計(18年)	項目	固定項目 (8年)	その他項目 集計(18年)
		集計値 備考			
エアロビクス・ジャズダンス・美容体操	3.4	1.2 「ヨーガ」含む	ドライブ	48.0	0.6
空手・合気道	0.5	0.3	パズル	12.4	0.4
サーフィン・ボードセーリング	0.8	0.3	麻雀	7.3	0.3
陸上競技	6.0	0.2	競馬	7.0	0.2
弓道	0.3	0.1	模型作り	3.6	0.2

このように、固定項目とフリー記入欄では、項目によっては、回答数に大きな差が生ずる恐れがあるため、時系列比較の観点から固定項目の削減については慎重に考慮する必要がある。

③フリー記入欄への回答を促す調査票設計

今回の集計では、「その他」を「した」と回答した人のうち、フリー記入欄に回答のあるデータのみを使用した。その割合は、スポーツで85.7%、趣味・娯楽で73.6%であり、それぞれ14.3%、26.4%はフリー記入欄に回答していない。

これには、フリー記入欄のスペースが小さいことに加え、調査票設計上の問題もあると考えられる。そこで、フリー記入欄を拡充するに当たっては、「その他」を「した」と回答した場合に、確実にフリー記入欄への回答を誘導するような工夫が必要である。

7 おわりに

以上のように、今回の『平成18年社会生活基本調査「スポーツ」及び「趣味・娯楽」の「その他項目」に関する集計結果』での分析によって、調査方法等に関する新たな知見が得られた。これらについては、平成23年に実施する予定の次回調査に反映できるよう、検討を進めていく必要がある。

なお、最後に、本稿の集計にあたっては、総務省統計局の近藤登雄氏、加藤耕二氏、木村正一氏、太田美音氏、尾島恵子氏、原紀子氏のほか、統計センターの職員の方々にご尽力いただいた。この場を借りて、関係者の皆様に感謝して、本稿の結びとしたい。

<参考文献>

勝浦正樹(2008) 「統計調査における調査項目変更の影響ー平成13年社会生活基本調査を例としてー」 野口和也編『経済統計の新展開』早稲田大学出版部、2008年12月

Sudman, S., Bradburn, N. M. and Schwarz, N. (1996), Thinking about Answers, Jossey-Bass, San Francisco.

総務省統計局 統計審議会議事録 <http://www.stat.go.jp/index/singikai/3.htm>

総務省統計局 平成18年 社会生活基本調査報告 第2巻 全国 生活行動編(調査票A), 2008年3月 <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2006/index.htm>

平成18年社会生活基本調査 調査票A (抜粋)

05

21 スポーツについて

・単に見物している場合や授業・研修として行うものは除きます

・クラブ活動や部活動は含めます

(2)この1年間に何日ぐらいしましたか
(右の1～7の数字で記入)

1: 1～4日 2: 5～9日 3: 10～19日 (月に1日)
 4: 20～39日 (月に2～3日) 5: 40～99日 (週に1日)
 6: 100～199日 (週に2～3日) 7: 200日以上 (週に4日以上)

(1)どのようなスポーツをしましたか

野 球 (キャッチボールを含む)	卓 球	ゲートボール
ソフトボール	テニス	ボウリング
バレーボール	バドミントン	つ り
バスケットボール	ゴルフ (練習場を含む)	水 泳
サ ッ カ ー	柔 道	スキー・スノーボード
	剣 道	登山・ハイキング
		その他のスポーツ

(1年間にしたスポーツについて記入してください)

22 趣味・娯楽について

・授業・仕事及び家事として行うものは除きます

・クラブ活動や部活動は含めます

(2)この1年間に何日ぐらいしましたか
(右の1～7の数字で記入)

1: 1～4日 2: 5～9日 3: 10～19日 (月に1日)
 4: 20～39日 (月に2～3日) 5: 40～99日 (週に1日)
 6: 100～199日 (週に2～3日) 7: 200日以上 (週に4日以上)

(1)どのようなことをしましたか

スポーツ観戦 (テレビ・DVDなどは除く)	楽器の演奏	囲 碁
美術鑑賞 (テレビ・DVDなどは除く)	邦 楽 (演劇、日本古来の音楽を含む)	将 棋
演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ・DVDなどは除く)	コーラス・声楽	パチンコ
映画鑑賞 (テレビ・DVDなどは除く)	邦舞・おどり	カラオケ
音楽会などによるクラシック音楽鑑賞	洋舞・社交ダンス	テレビゲーム・パソコンゲーム (家庭で行うもの・携帯を含む)
音楽会などによるポピュラー音楽鑑賞	書 道	遊園地、動植物園、水族館などの見物
CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	華 道	キ ャ ン プ
DVD・ビデオなどによる鑑賞 (テレビからの録画は除く)	茶 道	その他の趣味・娯楽
	和 裁・洋 裁	
		(1年間にした趣味・娯楽について記入してください)

23 旅行・行楽について

・19～22欄に記入する行動でも旅行・行して行った場合は記入してください

(1)どのような旅行・行楽をしましたか

行楽 (半日以上の日帰りを行い 夜行日帰りも含む)	観光旅行 (レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む)	帰省・訪問などの旅行
	業務出張・研修・その他	
	観光旅行 (レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む)	
	業務出張・研修・その他	

したか
に記入してください)

地域の人と	友人、知人、その他	一人で

見 本

5